１２月の生活表

２０１８年　１２月

聖マリア幼稚園

月主題：喜び合う　　・保育日数　（ 14 日・19 日 ）

月目標：・　イエス様のお誕生の意味を知り、共に喜びをもって、礼拝する。

・　心を合わせて喜びや感謝や賛美の表現をする。

・　社会や世界の出来事を身近に感じながら、自分たちにできる分かち合いや愛のわざを考える。

１２月。２０１８年も最後の月を迎えます。この園にとって大切なクリスマスをお迎えします。子ども達それぞれが、自分に与えられたお役でイエス様のお誕生をお祝いいたします。子ども達全員でお迎えするこのクリスマスは、在園生・卒園生とそれぞれの保護者・祖父母の皆様、またこれからこの園に来てくださる親子の方々、全ての方と共にお祝いするのです。その中には、日本のみならず神様が創造された世界にまたがり、この場で出会った人々を含みます。神様から「命」をいただいたことへの大きな感謝と私たちの為においでくださった神様のお独り子のイエスさまは、ページェントの「イザヤの予言」の説明の中にもあるように、「神様を知らないで悪いことをしたり、間違ったことを考えたり、苦しんだり・・を救うために人間の中に赤ちゃんとしてお生まれになった」のです。人間はお誕生日を迎えると喜び、プレゼントを頂き、また新たな日々の為に成長をしようと試みます。でもいつの頃からか、自分の実年齢を言いたくなくなるのは、いつまでも若くありたい、年齢を重ねたくない等々の想いが交錯するのでしょう。でも、そう言いながらも年齢を重ねていくのですね。年齢を重ねるということは、一年一年経験が増えるか、いえ、自分のことよりお子さんの成長を目の当たりにして寂しさを感じるのか、喜びを感じるのか、ひいては感謝へと繋がるのか、自分の老いを考えてしまうのか？ともあれ 11 月の様々な「感謝」に続いて、全てのことについて「感謝」する一番大切な「感謝」をこの 12 月にお迎え致します。今、子ども達は各々にお役を頂き、練習を始めました。今年は緑組の人数を考えて、久々に１年生のお手伝いをお願いしました。礼拝堂のチャンセルの上・下で大勢の子ども達が心を合わせ、とても賑やかな、しかし静粛な「まぶね礼拝」を迎えることでしょう。皆んなの心を合わせて喜びや感謝を、歌をもって世界中の人たちに賛美を知らせようといたします。子ども達の心に芽生える「愛」の素晴らしさをお届けしたいのです。生を受けてわずか２年～６年ほどの短い期間ですが、自らが今まで受けてきた「愛」が如何なるものだったのか、どの様に受けてきたのか、誰から頂いたのか、自身で感じてきた「愛」が、ここ聖マリア教会の礼拝堂に溢れ、世界中を照らす愛の光の様に、世界を見つめて何ができるのかを考え、みなさまにお届けできれば、こんない嬉しいことはありません。個々が生かされ、愛を持って人々に接することができるように、そんな素敵なクリスマスをお迎えいたしましょう。

《 チャプレンコーナー 》　１２月

月聖句：学者たちはその星を見て喜びにあふれた。　（マタイによる福音書 2：10）

遠路はるばる東の国から旅をしてきた占星術の学者たちは、不思議な星に導かれ、ユダヤの国までやってきました。この星が表れたのは、「真の王が生まれる」との知らせ。星はイエス様が生まれた家まで学者たちを導き、彼らは真の王、人類の救い主であるイエス様に出会うことができたのです。

クリスマス物語の一場面です。クリスマスは喜びの物語です。けれども状況は、決して喜ばしいものではありませんでした。それどころか「最悪」と言いたくなるような状況だったのです。時の支配者ヘロデ大王は、冷酷な王でした。イエス様が旅の途中でお生まれになったのも、ヘロデが強制的に人々を移動させたからでした。いわば、全国民が「難民」と化しているような状況でした。学者たちは

外国人であるがゆえに、民族意識の強いユダヤの国では排斥の対象となっていました。

羊飼いは、被差別の職業、イエス様のお父さんのヨセフの職業である大工も、被差別の職業でした。世界帝国ローマの圧迫も強まり、圧政に苦しむ人々の反乱やテロも頻発していました。学者たち、また羊飼いたち、マリアやヨセフが得た喜びは、お金や力など、この世で求められる喜びではありません。彼らが得たのは「希望」でした。これから神様の救いが始まる、これから世界は必ず良くなってゆく、私たちは平和を作り出す力を持っている、これらの希望が彼らに喜びを与えたのです。この喜びは、現状がどれほど苦しくても、決してなくなることはありません。私たちは子供たちに希望を語り、そして希望を持てる未来を与えていきたいと思います。この世の富は消え去りますが、希望は決して消えません。希望は人を優しくし、人々をつなぎ合わせ、ともに歩む力を与えます。深く、広く、愛へと導く真の喜びである希望を、子供たちに与えましょう。

おたんじょうび　おめでとうございます

９日：うえの　こうようくん　　２７日：ただ　はるかさん

２３日：おはら　あおいくん　　３０日：もろはら　みいちゃん

＜生活指導＞

☆ 自然の移り変わりに目を留めてみましょう。

・ 風の冷たさ、音、樹々の変化、山の色の変化、登降園途中の様々な発見を大切にし、冬の訪れを感じてみましょう。

☆ 自分で出来る事は自分でやってみましょう。

・ 上着を着る機会が多くなります。ジャンパーのボタンやファスナーが自分で出来るように練習してみましょう。出来ない時にはお手伝いをしてあげましょう。『〇〇して下さい。』とのお願いのことばを添えて。

・ 自分の持ち物は自分で整理整頓しましょう。脱いだあとの服の始末（たたむ・フックに掛ける・ハンガーにかける等）、鞄を一定の場所へ・・・幼稚園へは上着を着たまま保育室に上がらせて下さい。たたむ練習をしています。

☆ 健康管理に留意しましょう。

・ インフルエンザに備えて、帰宅後の手洗い（指の間・手の平と甲・手首）をしっかりと。

・ 暖房器具が活躍する季節になりました。換気と乾燥に気をつけましょう。

・ 子ども達の肌の感覚（汗をかく、冷たい風に当たる）を養いましょう。

☆ 家の中で、お手伝いをさせましょう。

・ 年末には、子ども達も家族の一員として子どもが出来る範囲のお手伝いをして、責任が果たせるように話し合って考えてみましょう。（雑巾がけ＝絞る、たたむ、掃く＝クリーナーor 箒と塵取りの使い方＝物をのけて掃除する、トイレ掃除＝奇麗に使う　等々）

・ お手伝いの様々な内容により、その方法や要する時間等、年齢や場面に合った臨機応変さも含めてのお手伝いを考えてみましょう。

・ 楽しいお手伝いになる事も大切です。そのためには、大人からの感謝を伝え、時にはお駄賃（ご褒美）も良いのかもしれませんね。

☆ 年末年始には、隣近所の方としっかりご挨拶が交わせるようになりましょう。

☆ 年賀状を出し合ってみましょう。

・ 年賀を通して、その人の事を思い、また年齢（３～５歳）や個人（個々の園児）に応じ、年号・干支（酉年）・字・数字・電話番号・自分の住所等に興味関心を持つ機会となりま

すように。（自分が住んでいる地名、祖父母の姓名は？）

☆ お年玉について話し合いましょう。

・ お金の種類・価値・使い方等について、子ども達に知らせてみましょう。

☆ 冬休みにもお祈りを忘れずに

・ 年末には１年間のお守りに感謝をし、年始には１年間のお導きお守りをお願いしましょう。（家族の為、お友だちのため、社会情勢や自然事象について、様々な事を・・・）

＜こひつじの会よりひとこと＞

早いもので、２０１８年も最後の月。綺麗なイルミネーションや飾りで街はすっかりクリスマスモードですね。マリア幼稚園でも、１１月に入ってから、クリスマス・ページェントのコーラスの練習が始まりました。コーラスの方々の綺麗な歌声に、「あぁ、今年もこの季節がやってきたんだなぁ。」と心が弾みます。グッと子どもたちの成長を感じるページェント、今年もとっても楽しみです。

娘がマリア幼稚園でお世話になって、１年半が経とうとしています。家からは少し距離がありますが、それでもどうしてもマリアに通わせたいという思いでプレプレクラスへの入会を決めました。しばらくして、私の失態の為に思いがけず娘と私はバスを乗り継ぎ、片道１時間かけて幼稚園に通うことになってしまいました。その頃、プレプレちゃんから小花ちゃんになったところで、週２日から５日に、保育時間も延びて、おまけにバスで帰る…まだまだ小さい娘は、帰りは眠気との闘い。息子を抱いている私は、娘を叩き起こして引きずり降ろす毎日でした。でも、そんなバス通園生活も、娘から幼稚園での話を聞いたり、教えてもらった歌を歌ったりと娘とゆっくりと関われる機会になりました。幼稚園の話をする娘は本当に楽しそうで、先生が話されている口調や表情そのまま私に説明してくれたり、幼稚園での様子が色々想像できて、私も楽しい帰り道になりました。毎日山道を上り下りするうちに、娘の足腰も随分強くなりました。バス通園が始まってかれこれ１年。娘には大変な思いをさせてしまいましたが、これにも何か意味があるのだと信じています。

娘は、マリア幼稚園が大好きです。幼稚園で先生やお友達からいっぱい愛を受け、毎日幸せにスクスクと育っています。私も、マリア幼稚園の何だかホッとする、昔から変わらぬアットホームな雰囲気に癒されています。また、息子も「幼稚園に行くの～！」と毎朝泣くほど、既に幼稚園が大好きです。まだまだ未熟な親子ですが、共にマリア幼稚園で成長していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会計 花組　真辺 舞

＜クラスだより＞

花組

毎日の変化に目を留めているつもりでも、子どもたちの成長が当たり前で「大きくなったね」と言わずして、「通り過ぎていることがあることがあるなぁ」と朝の用意を一人でタッタと済ます花組さんを見ていて思うことがあります。2 学期に入って随分と身辺自立が進みました。衣食住でいうと、「衣」＝着脱にまつわること。例えば、服の前後/裏表の認識、ファスナー/ボタンの開閉、靴の左右差、衣服の部位名称を獲得、畳み方を習得しました。「食」＝道具の使い方、基本的なマナー（食べこぼし、椅子に座る）、食材/調理に関心をもって食欲に繋がるようになりました。「住」＝整理整頓（おもちゃの片付け、自分のものの管理）、排泄の自立、物の共有ができるようになるなど、繰り返し積み重ねてきたことが身に付き、当たり前のように「出来ていること」が多くなってきました。子どもが自立していくということが嬉しい一方で、成長することで「今まで」とは変わっていくことなのだと思うと、なんだか少しセンチメンタルな気分になってしまいます。成長することは自立に向かうこと、その姿に「可愛さ」だけではない、子ども自身の「意識の変化」を見届けて 2 学期を締めくくらねばなりませんね。

さて、最近の花組さん。生活面だけでなく友達との関わりが増えてきました。それは自我と自制心とが複雑に入り交る時期を迎えたということです。例えば小花ちゃんの「お世話」してあげたいと思う。カラーブロックやおもちゃの箱を自分が一人で運んで「ありがとう」と言ってもらいたいと思う。「〇〇ちゃんの隣に座りたい！」と交渉する…ただし必ずしも、自分の思うように友達は思ってはくれないことが往々にして起こり、時に「やめて！」と拒否され「あかんのに～」とか「いれてあげへん」とか「きらい！」ときつく（←とても京都的♪）言われ、涙がこぼれてしまうことがあります。でも泣いてお終いではないのが社会性の芽生えた花組の「今」です。「だから、どうしたらよいのか？」「どうして、こうなったのか？」状況を振り返り、自分たちの想いをあらためて説明することで相手を理解することに繋がっています。同時に自制心が発揮され「譲ってあげる」・「ごめんね」と言える・泣かない…と言った今までとは違う対応力を身に付けていきます。すると…ちょっと家ではわがままになってしまうこともあるかもしれませんね。園で我慢したことが辛くなり悲しくなってしまう子もいるかもしれません。これも大事な「育ち」の側面です。家での姿と幼稚園という子どもにとっての「社会」での姿が異なることは、大人に当てはめても当然のことです。「大きくなったね」はこうした葛藤もまた成長の印なのだと、その姿を認めながら「気持ちよく」人と環境とに交われる方法を私たちは知らせていきたいなと思います。

さて、時は 12 月。当園においては特別な日々を過ごすことになります。そう！それはクリスマスがやってくるからです！サンタさんもやって来ます！クリスマスケーキも美味しそう！みんなでパーティーも楽しみ♪でも…本当のクリスマスは…？花組の子たちにもわかるように、ページェントを通してイエス様のお誕生をお祝いしたいと思います。真っ白い天使の

衣装に羊の衣装…想像しただけでやっぱり「可愛いい！！」と思ってしまいます。その「可愛さ」も花組の特権！可愛さの中に「愛を」！皆さんにお届けできるように頑張ります！

赤組

「朝な、吐く息が白くなっててん」ある子が興奮気味で伝えにきてくれました。そう、本当に、冷え込む朝が多くなり、子ども達の服装にもコートや手袋、マフラーが加わるようになってきました。身に着けるものが多くなると、気になるのが降園時の忘れ物。以前のクラスだよりで書かせて頂いた、”先生のおロストップ宣言”あれから自分達で、ボックスの上、中、下を確認する癖がつくようになりました。そのおかげもあって、小物が増えてきた最近でも、みんなが帰ったあとのボックスは忘れ物が０になりました。

いつのまにか、今年最後の月を迎えようとしています。12 月、感謝祭でいろんなありがとうに触れられた子ども達の心は、寒さなんかに負けず、クリスマスがお迎えできる温かい心になっていくことでしょう。

さてみんなで協力して迎えた感謝祭。皆様の目には赤組さんの姿がどう映ったでしょうか？大きな声で歌えたこと、台詞を言えたこと、指揮を真剣に見て演奏できたこともちろんですが、劇ごっこにリズムバンド、ご準備において、それぞれに与えられたお役。子ども達はそのお役がいかに大切なのか、何のために必要なのかを少ない時間の中で、考え、そして役割を果たしました。そんな子ども達の姿を見て、大きくなったな、頼れる存在になってきたのだなと思いました。この成長には、いつも側に緑組さんの姿があることが大きく影響しています。
今まで緑組が自分たちのためにしてきてくれたこと、そして日頃から一緒に過ごしている中で、困ったときに助けてくれる緑組の姿をかっこいいと思えているからです。大人ではない、でも自分達の少し先を歩いてくれている緑組の存在、と共に赤組さんを小さいお兄さん、お姉さんとして慕ってくれる、しっかりしなくっちゃと赤組を奮い立たせてくれる、花組さんの存在も大切なものなのです。花組さんがいるから頼ってもらう経験をすることができるのですから。赤組も花組にとって一歩先、二歩先を歩いている存在になれていると嬉しいですね。

そんな先輩から受け継ぎ、クリスマス ページェントでは聖歌隊を担う赤組。イエス様がお生まれになったお話をお歌で伝え、メインキャストの緑組、子羊、小天使の花組さんを支えるお役です。歌でつないでいくページェント。とは言っても、中にはお歌が苦手、上手に歌えへんと思っている子どももいることと思います。上手にできることがいいことじゃない、上手に歌えなくても大丈夫。どうして歌うのか？何をお祝いするのか？を考え、理解し、みんなでイエス様のお誕生をお祝いしよう、喜び合おうという気持ちを持つことができればいいのです。その気持ちは知らず知らずのうちに、声や姿に表れていきます。先日、実際に歌を歌ってみて声合わせをしました。赤組全員で歌うアンセムも初めて歌ってみたにも関わらず、みんなの声がひとつになっていてきれいな歌声だったのです。感謝祭での”できた！”が子ども達の自信

となってきたのかなと、ページェントに向かう赤組の姿を想像し、早くも楽しみになった担任なのでした。その後、「ああ早くお歌歌いたいなあ」「ぼく、らくだの歌歌いたいねん」「ぼくはあの歌がいいな。だって〇〇くんが歌ってはった歌やもん」それを聞いて、緑組の姿が確かに、具体的な目標として、憧れとして赤組の中にあるのだと実感したのでした。

今週から始まったクリスマス ページェントのご準備。メインキャストとしての緑組の姿は、赤組さんの目にどう映るのでしょうか。そして花組さんにとっては？きっと次に向かう具体的な目標、憧れの存在になるに違いありません。こうした温かい雰囲気の中で、クリスマスを迎えられることに感謝しつつ、喜び合うことができますように。みんなの気持ちがひとつになる時、お礼拝堂に愛でいっぱいの歌声が響きわたるのではないでしょうか。

緑組

毎年冬の到来を感じる、ゆりかもめの飛来はまだのようで、季節を逆行するような温かい日が続くと天気予報が告げています。街のクリスマスデコレーションがしっくり来るにはまだもう少し時間がかかるのでしょうか？

感謝祭では本番が近づくにつれて、皆が緊張しているのがよくわかりました。その日のスケジュールを子どもたちに「今日も練習しますよ」と伝えたときに「えーっ！？」と言う返事が返ってこなかったのです。劇ごっこかリズムバンドかどちらかしか練習をしない事を告げると「劇ごっこは？」「リズムバンドは？」（しないの？）と必ず聞いてきました。子どもたちの中にまだもう少し練習したい。自信がまだ無いという気持ちがあるのだなと感じ取れました。
それでも初めて劇ごっこを演じる花組さんの、初めて一緒に劇ごっこをする赤組さんのお手本にならなくっちゃという意識がありました。ぐんぐん上手になる赤組さんに刺激され、より自分を奮い立たせて頑張る姿も見られました。より成長した緑組さんを見せてくれた感謝祭でした。さあ次は、本格的にページェントの練習が始まりますよ。

この時期にいつも思い出す絵本があります。私事でとても悲しい出来事があった年のクリスマス。街のイルミネーションがあまりにも目に心に染み込み、街を行きかう人々のクリスマスを楽しんでいる様子が、賑やかさが辛くて目を開けていられない、外に出たくないほどの毎日を過ごしていた時に恩師が私の子どもの為に読んでくださった絵本がありました。それは・・子どもが欲しいと長年願っていたけれども叶わず、寂しく過ごしていた老夫婦が、クリスマスの近づくある日、雪で坊やをこしらえます。そして我が子のようにかわいがっておりました。クリスマスの日には子どもが居る家には　煙突から光が輝きそれを目当てにサンタクロースがやってくるのですが、一軒の家だけが弱い淡い光を放っており不思議に思った神様が様子をご覧になると、その家の子どもはなんと人間の子どもではなく雪の坊やだったという事に驚かれました。（だから弱い光しか発していなかったのだと）しかし雪の坊やを大切に可愛がる老夫婦の姿を見て、クリスマスの夜に雪の坊やを本当の子どもにされたというお話です。　一見

ピノキオのようなお話ですが、何よりもこの絵本の締めくくりの言葉には、「どんな子どもにも平等にクリスマスはやってくるのです。神様はどの子どもにも愛をくださるのです」という言葉があり、心を打たれました。そうだ私の子どもたちを神様は見ていてくださっていて、愛を下さるのだと！　プレゼントやご馳走が並び賑やかにみんなで過ごすクリスマスが子どもにとって最も楽しいのだ！クリスマスは楽しく過ごさなくては！と思い込んでいた自分の考えが吹っ飛びました。そして、子どもたちとクリスマスをお迎えできることに感謝し、穏やかに静かに過ごした、その年のクリスマスは生涯忘れないクリスマスとなりました。　このお話はイヴエット・トゥボーの「雪のぼうや」というお話です。ページェントの最後のお祈りを聞くと、矢張りこのお話を必ず思い出します。自分たちだけではなく、世界中の人々に平和と愛で満ち溢れたクリスマスでありますようにと。子どもたちのお祈りがみんなに届きますようにと。どうか、ページェントのメインキャストとして頑張り、イエス様のお誕生を心からお祝いする子どもたちにとって特別なクリスマスとなりますように！　　メリークリスマス！